

### Ⅲ. 施設計画

---

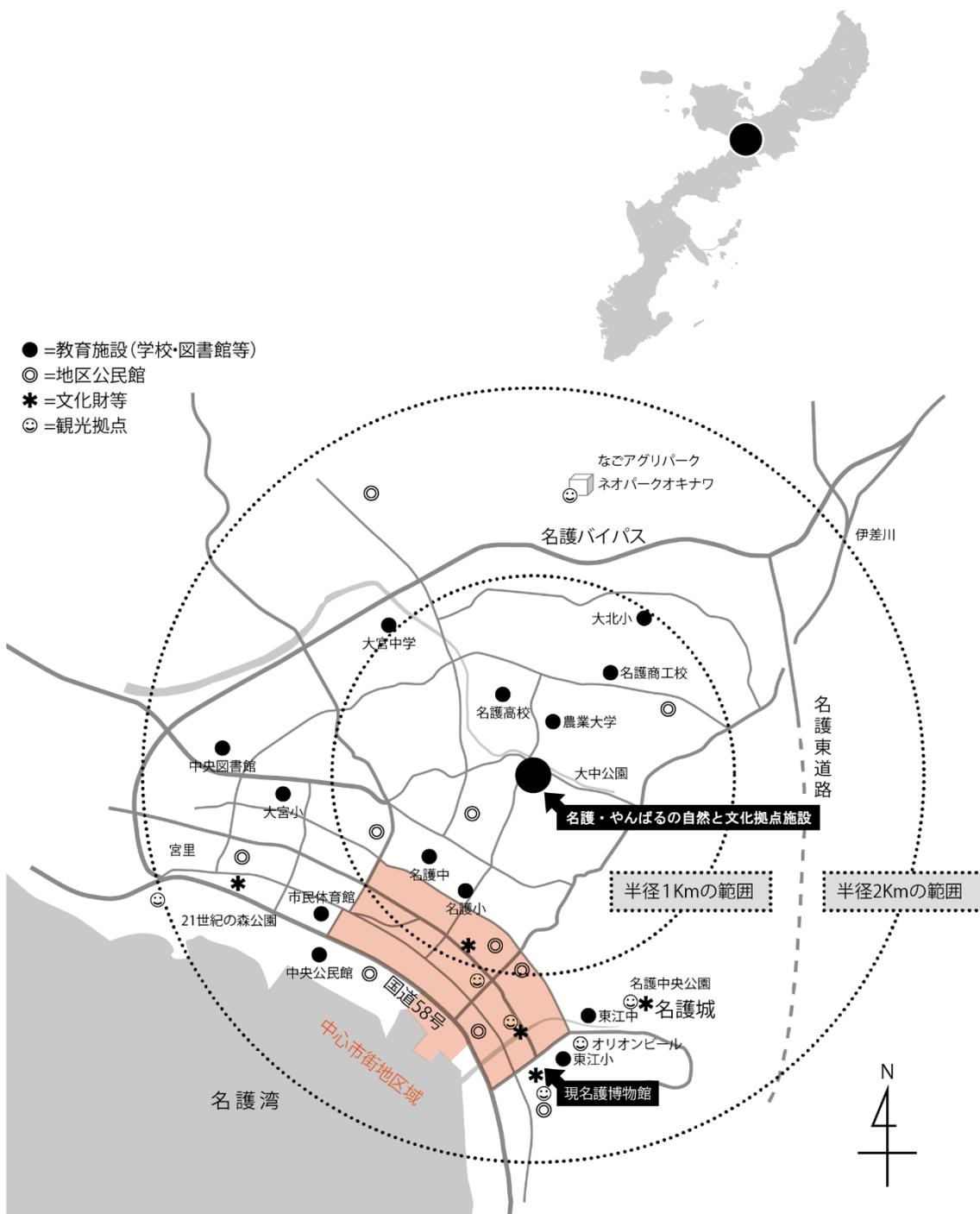
Facilities planning

# Ⅲ. 施設計画

## 1. 施設立地

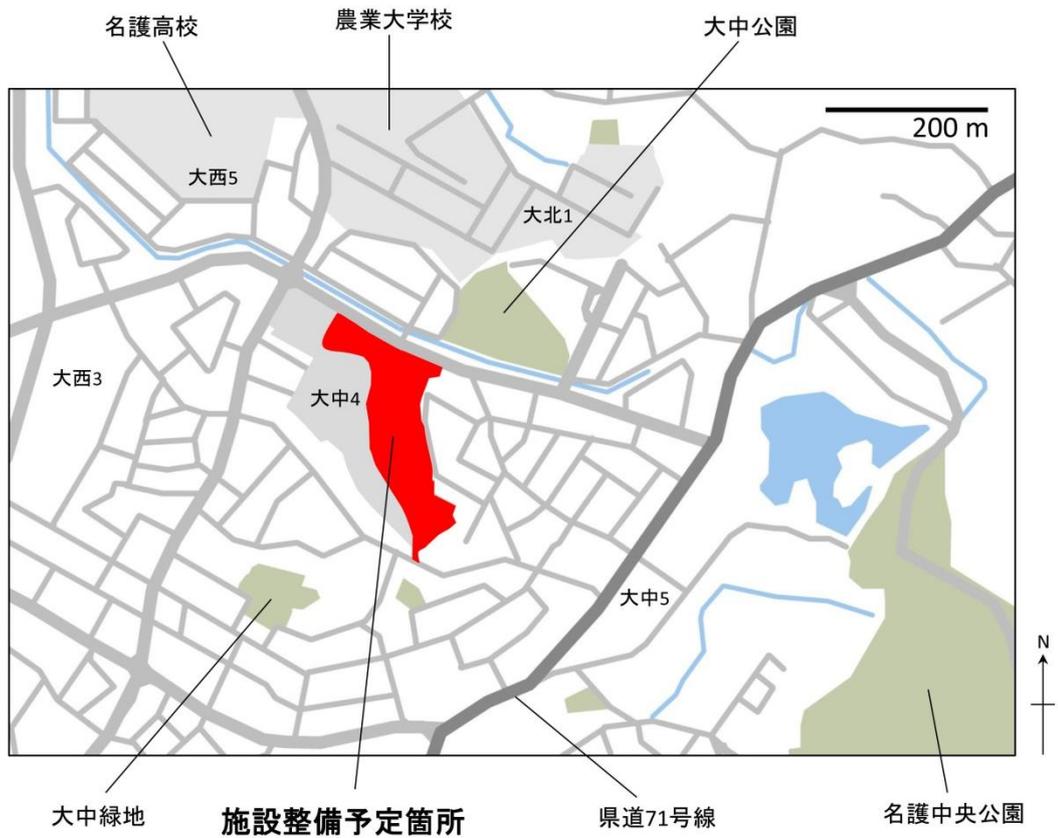
### (1) 建設予定地の周辺

沖縄県名護市大中  
(森林資源研究センター跡地)

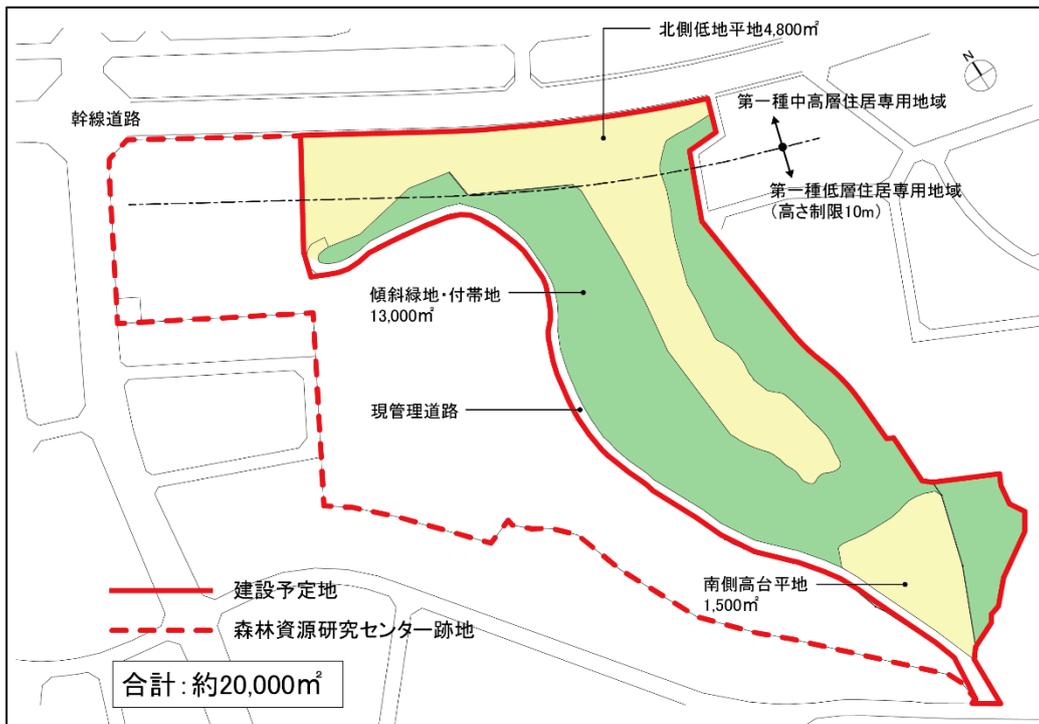


### Ⅲ. 施設計画

#### (2) 位置図



建設予定地の周辺情報



建設予定地

### Ⅲ. 施設計画

#### (3) 法令規則

法令規制	内容	
業務名称	名護やんばるの自然と文化拠点施設整備事業	
計画地	沖縄県名護市大中	
敷地面積	20,000 m <sup>2</sup> (管理道路こみ)	
都市計画区域	都市計画区域内 その他用途地域 (未線引き)	
用途地域	第1種中高層住居専用地域 (前面道路より25m範囲)	第1種低層住居専用地域
建ぺい率	60%	50%
容積率	200%	100%
道路幅員	北側 16 m	南側 16 m
高さ制限	—	10m
道路斜線	斜線適用距離 20m 勾配 1.25	斜線適用距離 20m 勾配 1.25
隣地斜線	立上り 20m 勾配 1.25	—
北側斜線	日影規制適用のため除外	立上り 5m 勾配 1.25
日影規制	高さ > 10m	対象建築物 軒高 > 7m または 地上階 ≥ 3
	平均地盤からの高さ 4m	平均地盤からの高さ 1.5m
	規制時間 欄(3) 5<, ≤ 10 5h > 10 3h	規制時間 欄(3) 5<, ≤ 10 5h > 10 3h
都市計画法 開発許可	—	—
防火地域	—	—
宅地造成規制区域	—	—
構造の重要度係数	—	—
国有林等伐採の規制	—	—
その他規制	—	—

## Ⅲ. 施設計画

### 2. 立地の優位性

#### (1) めぐまれた自然・文化的フィールド

名護・やんばるの自然と文化拠点施設の建設予定地である森林資源研究センター跡地の周辺は、さまざまな自然・文化的フィールドに恵まれていることから敷地内のガイダンス機能と連携した様々な活動が推進しやすい最適地です。

たとえば、自然観察であれば国頭マーシ（赤土）をおもな土壌とする名護岳や、カルスト地形を有する嘉津宇岳が近くにあり、それぞれ異なる地形・地質に、特徴のある植生と動物相を見ることができます。

また、都市河川でありながら比較的多くの生きものが見られる幸地川、河口域にマングローブや干潟を備える屋部川、自然の景観を残し、ウミガメの産卵も確認されている宇茂佐海岸の砂浜など、名護湾に面する水域にも自然観察スポットが数多くあります。

春先には、名護湾を回遊するザトウクジラを見ることができ、名護町時代の大型捕鯨の歴史や、ピトゥ（小型の鯨類）漁とむすびつけて学習することもできるでしょう。

森林資源研究センター跡地の南には、周辺集落の成り立ちに深い関係を持つ名護城（ナングスク）があります。本施設と連携した歴史・文化的フィールドとして、今後ますます重要な場所のひとつとなるでしょう。

また、琉球王府時代には名護番所があり、近代以降には行政機能が置かれて市街地の発展に寄与してきた歴史をもつ、現名護博物館も近い距離にあります。国指定の文化財「名護のひんぷんガジュマル」や「津嘉山酒造所施設」など、数多くの文化財も周辺には散在しており、歴史や文化を徒歩や自転車で探訪するまちなか観光にも最適の場所といえるでしょう。

このような周辺のフィールド要素は、おもに名護湾に面した名護・屋部地区が中心となっていますが、市内の羽地・屋我地・久志方面、あるいは市外のやんばる各地のフィールドへ出かける際にも、森林資源研究センター跡地は、交通の便が良い立地にあるといえるでしょう。



名護のひんぷんガジュマル（国指定天然記念物）



津嘉山酒造所施設（国指定重要文化財）

### Ⅲ. 施設計画

#### (2) 活動テーマにふさわしい地形的特徴

建設予定地の重要な利点として、森林資源研究センター跡地に残されている緑地とその地形があげられます。候補地は北側が低地になっており、南側の高地に向うマタ（谷間）のような地形が見られます。そしてそのマタに沿って水が流れ、周囲が植生で覆われています。

このような環境は、「名護・やんばるの自然と文化」を基本テーマとする活動には理想的な場所であり、かつて、やんばるで見られた田畑の再現や自然散策路の整備、里山の環境の復元など、将来的にさまざまな活動に発展させることが可能です。

また施設周辺の自然・文化的フィールドと、敷地内の野外・屋内展示をむすびつけることで来館者の理解を手助けし、フィールドへ足を運びやすくする相乗効果をもたらします。

#### (3) 周辺施設との連携、利用者の利便性に優れた立地

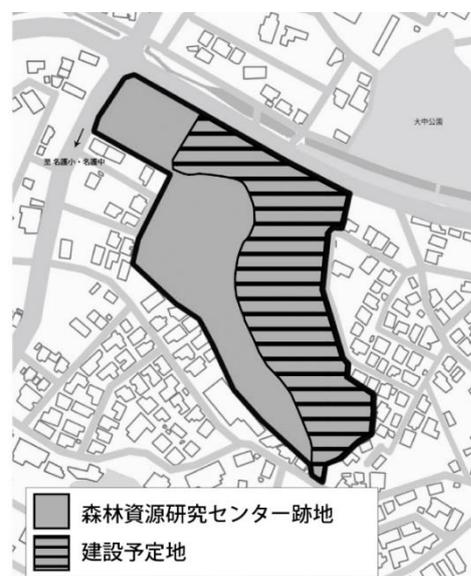
候補地はこれまであげたような「周辺フィールドの充実」、「活動テーマに適した地形的特徴」という優位性を持ちながら、名護市の中心市街地からも近い距離にあり、地域住民や観光客の誘客が図りやすい場所にあります。

半径 2 km 圏内には市内の多くの教育・文化・観光施設があるだけに、さまざまな連携を図りながら充実した施設活動を展開する上で、これ以上優れた条件はありません。また、名護市が推進する中心市街地における体験・滞在型のまちなか観光やそれらと関連する自転車ネットワークの構築とも関連を持たせることで地域振興への相乗効果が期待できます。

さらには、市内外からの交通アクセスもよく、名護・やんばるの玄関口として、フィールドミュージアムのコアとしてのガイダンス機能を十分に担うことができます。



建設予定地の航空写真（上が北）。白線内が候補地。住宅地の中に残る豊かな緑地や、マタを確認できます。



### Ⅲ. 施設計画



建設予定地を北側から見た景色。手前が低く平坦になっており、奥へ向かってのぼる傾斜と植生が残されています。



森林資源研究センター跡地へのアクセス道路



かつて湿地があった場所



残された緑地には写真のカクショウランなど、絶滅危惧種の希少植物が見られます。

## Ⅲ. 施設計画

### 3. 施設配置のイメージ

#### (1) 土地利用の方向性

名護・やんばるの自然と文化拠点施設では、建設予定地に残された緑地と地形を有効に活用し、野外・屋内展示を効果的に融合させることで、名護・やんばるの各地に誘うガイダンス機能をもった拠点施設の整備をめざします。

施設の配置については、候補地の土地形状や主要道路からのアクセスを検討した上でエリアを設定し、動線や景観などにも配慮しておこないます。植生や地形をうまく利用することで、外界から視覚的に遮断され、来場者が異世界に来たと感じられるような空間の創出をめざします。

#### (2) エリアの設定

##### ① 駐車・アクセスエリア

本施設にアクセスするための主要なエリアで、おもに来館者の駐車場として利用されます。北側幹線道路、交差点からのアクセスがよく、平坦な建設予定地北西側に設定します。

##### ② 展示・情報・交流エリア

幹線道路沿いの平坦部を利用して展示・情報・交流棟を建設し、常設展示や企画展示などの屋内展示をはじめとする情報発信機能、交流機能のほか、これらの活動基地となるバックヤード機能を整備します。

##### ③ 暮らしの実践・体験エリア

1) 低地エリア 展示・情報・交流棟から続く平坦部を利用して、近現代の古民家や高倉などを復元し、民具などを使った実践的な体験もできる野外展示エリアです。展示・情報・交流棟のピロティからつながる連続的な空間になるよう考慮します。

2) 高台エリア 民具の貸出しなどの利活用を想定した収納庫とそれらを使って展開できるワークショップスペースを備えたエリアです。南口からのアクセス機能も確保します。

### Ⅲ. 施設計画

#### ④ 自然と人の共生エリア

「展示・情報・交流エリア」や「くらしの実践・体験エリア」に隣接するピオトープや傾斜地の緑地を活用して、自然の中でくらし体験や、自然環境について学ぶことのできる屋外展示エリアです。在来家畜・作物の飼育・栽培や、自然散策路の整備をおこない、「くらしの実践・体験エリア」でおこなう様々な体験活動で使用する自然素材の供給地としても機能します。

「展示・情報・交流エリアの一部」と「くらしの実践・体験エリア」、「自然と人の共生エリア」は連続性を持たせた配置とし、基本的に無料で公開して、都市部の中で緑地に囲まれた散策を来訪者が楽しめるようガイダンスコースを設定します。



### Ⅲ. 施設計画

#### (3) 必要諸室と面積

本施設の活動・運営を円滑におこなうためには、施設管理者と利用者、双方の利便性が図られた施設機能を備えていることが必須です。そのためには、必要諸室が施設活動に十分な面積を有していること、各機能間の人・資料の動線がスムーズにおこなえるよう、諸室が適切に配置されていることなどが必要となります。

#### ① 展示・情報・交流棟

部門	諸室	機能	面積	備考	
情報発信・交流	常設展示室	海や山、川に関する展示(大型鯨類骨格標本など)	753.1	1120.3 自然史資料と民俗・歴史資料を混在させ、やんばるの自然とくらし(文化・歴史)をガイドする内容	
		民家や家畜等の集落に関する展示			
		関連するテーマ展示に関する展示			
	企画展示室・ギャラリー	名護・やんばるに関する様々なテーマの展示(自館・外部利用者)	151.4		バージョンで区切り市民ギャラリーと併用できる構造
	展示準備室	企画展示室・ギャラリーで使用する備品(イス・机等)収納機能、展示資料準備・修復等の作業スペース	32.2		
	総合ガイドコーナー	やんばる地域のガイドやリアルタイムの観光情報等を発信する	48.0		書籍、マップ等の紙媒体、映像等のデジタルコンテンツなど
屋内体験学習室	講演会、体験講座などが実施できる多機能な交流スペース	135.7	屋外で行う体験プログラム等との連携を考慮し、屋外の「くらしの実践・体験エリア」との連続性を持たせた構造		
収蔵	収蔵庫	現名護博物館が収蔵している約3万点の資料および施設整備後の収集資料を収容。	776.9	1042.2 温湿度管理	
	前室(燻蒸)	荷解き室・トラックヤードから収蔵庫および展示室へ搬入するための緩衝機能。温湿度調整、燻蒸機能。	140.6	薬剤による燻蒸可能な密閉構造	
	荷解き・トラックヤード	外部からの資料搬入出機能。	68.2	4tユニットの搬入出。サバニ(舟)や鯨類骨格等の大型資料の搬入出を想定	
	倉庫	備品等保管機能。常設展示模様替え時の資料一時保管機能	43.5	展示ケースや大型資料の搬入出に支障がない構造	
	冷凍室・冷蔵庫	剥製・骨格標本等の自然史資料作製に給するための資料、DNA解析用資料等の保管	13.0	バックヤードに配置、半野外で可能。	
調査・研究	調査研究室	自然史、歴史民俗、美術工芸等の分野ごとの資料整理、調査研究スペース	51.1	147.1	
	資料室	図書資料、デジタル資料等の保管	96.0		
管理・共通	ロッカー	利用者用	4.8	1017.8	
	トイレ	男女、多目的	80.8		
	授乳室	利用者用	4.0		
	受付・ショップ	受付業務、グッズ等の販売機能	6.8		事務所に付属
	事務室	15~20名	121.0		指定管理者等の利用分も想定
	応接・会議室	来客用、連携機関会議等で使用	38.4		
	ボランティア控え室	ボランティアスタッフ等の待機、活動スペース	21.8		
	用務員室(防災センター)	機械警備	17.4		掃除用具入れ
	更衣室・シャワールーム	男女	22.9		
	給湯室	職員・来客用	6.0		
	機械室・電気室	機械換気	67.6		
	エントランス、廊下、階段、EV等		626.3		利用に支障のない面積を確保
	合計				3327.4

### Ⅲ. 施設計画

#### ② ワークショップ棟（くらしの体験・実践エリア）

部門	諸室	機能	面積		備考
ワークショップ棟	倉庫	ワークショップ利用等で使用する民具資料等の収蔵	286.1	360.0	ビロティ構造、半野外
	休憩・ワークショップスペース	民具使用や自然素材を使ったものづくり等のためのワークショップスペース。	64.8		
	トイレ		9.1		
屋外展示	高倉	茅葺き。やんばるのくらしを説明するための資料	35.0	146.0	現名護博物館にある名護市指定文化財を移設 市内で取り壊した古民家の資材(名護市教育委員会所蔵)を一部利用
	古民家	赤瓦の古民家で、民具等も併用して様々な体験や交流が可能なスペース	111.0		
駐車場	来客用(北側)	普通車	30台	1700.0	
		大型バス	3台		
	管理用 高台エリア利用 (南側)	普通車	15台		

#### ワークショップの例



昔ながらのパーキ（竹かご）づくり講座



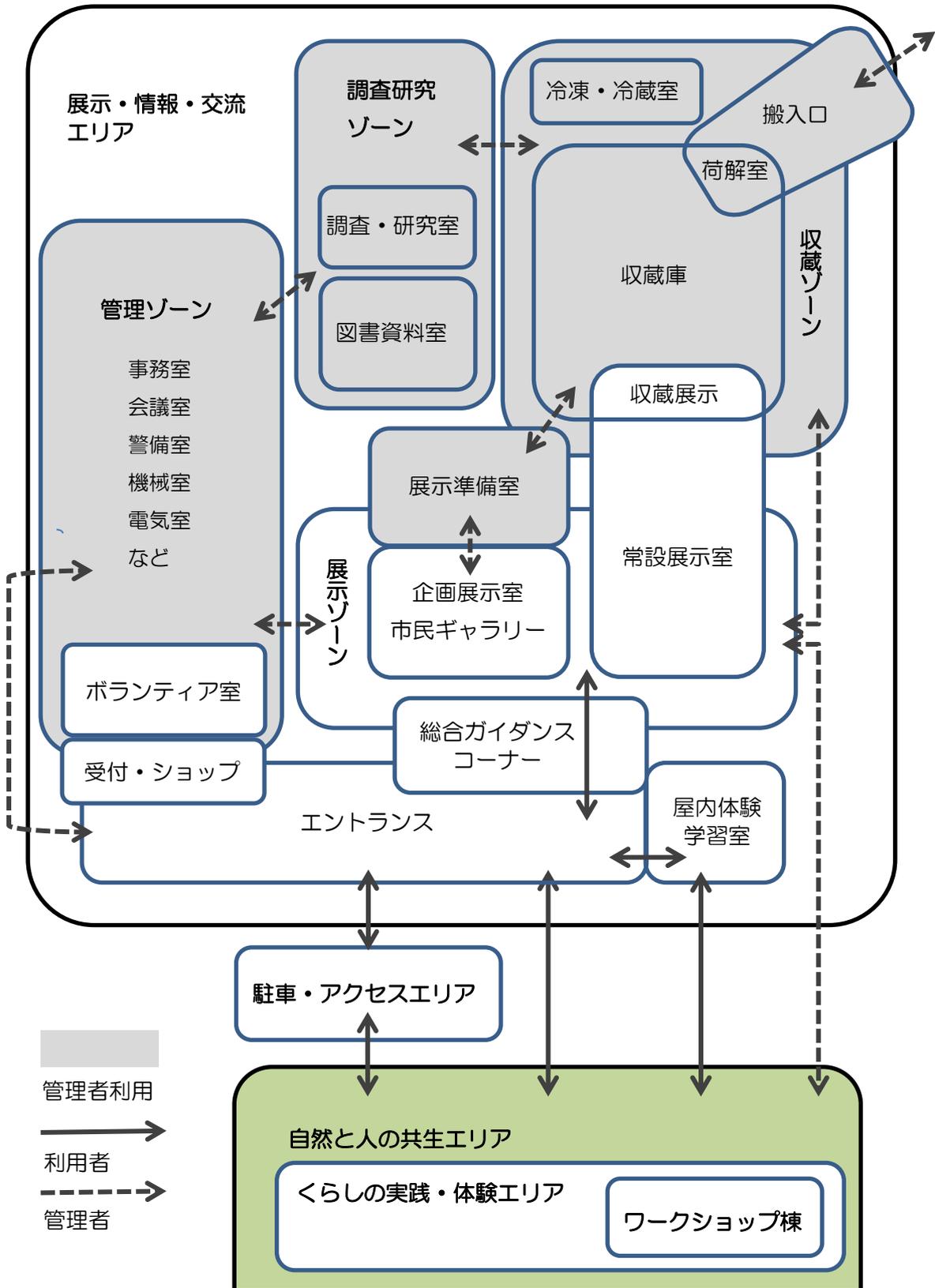
昔ながらのパーキ（竹かご）づくり講座



サーター車を使った黒砂糖づくり講座

### Ⅲ. 施設計画

#### (4) 施設機能と諸室配置のイメージ



## Ⅲ. 施設計画

### (5) 建築の基本な考え方

名護・やんばるの自然と文化拠点施設は、名護・やんばるを象徴する外観と機能性を持った設計をめざします。現名護博物館の半野外のスペースと中庭が連動した開放的な空間や自由な会話を楽しむことのできる落ち着いた雰囲気は市民や観光客から好評で、新施設にも同様の雰囲気を求める声が多いため、これを継承し、人の交流が絶えず、常に地域の新鮮な情報が集まる「寄り合い」の場になる空間の創出を目指します。それは「ぶりでい」の理念に基づいて、みんなで学び・作ることを楽しむ場として利用者に提供するために必要な前提条件です。また、バリアフリーなどを備え、どのような利用者にも対応できるユニバーサルデザインを検討することは必要不可欠です。

#### ① 名護・やんばるの風土に根ざした建築

今も残る豊かな自然と伝統的な家屋・集落を懐かしむだけでなく、風土に裏打ちされた建築技術や知恵が未来へも活かせるヒントを含んでいることを実感できる、「古くて新しい」カタチを提案します。

#### ② 環境に配慮し、循環型社会の実現に寄与する建築

自然と共生してきた伝統的な名護・やんばるの循環型社会とそのライフスタイルを参考にするとともに、太陽光発電や小水力発電などの技術導入も視野に入れた施設の建築を検討します。こうした建築意匠は、来場者に現代の大量消費社会への疑問を投げかけ、循環型社会への関心を高めることに寄与します。

#### ③ 地域に残る技・素材を継承する建築

在来の自然素材を積極的に使用し、伝統的な道具や建築技術の再生・保存・継承という視点を考慮した施設設計をめざします。そのためにも「ぶりでい」の精神に基づき、みんなで造る喜びを味わえるような機会や仕組みを設定します。



名護博物館の天井の木組み



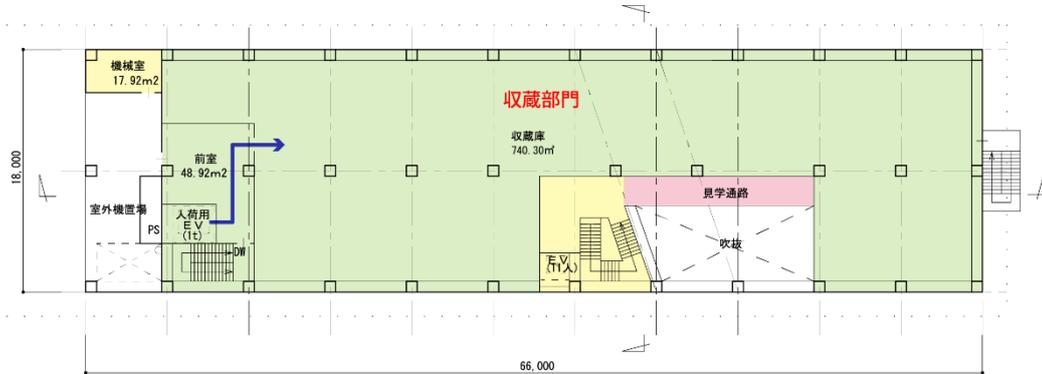
名護市役所庁舎のテラス



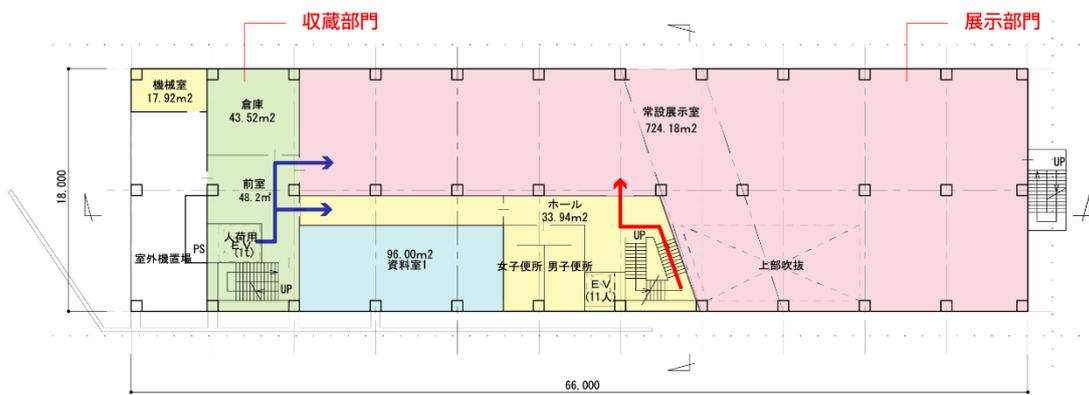
謝名城の高倉（名護博物館）

# Ⅲ. 施設計画

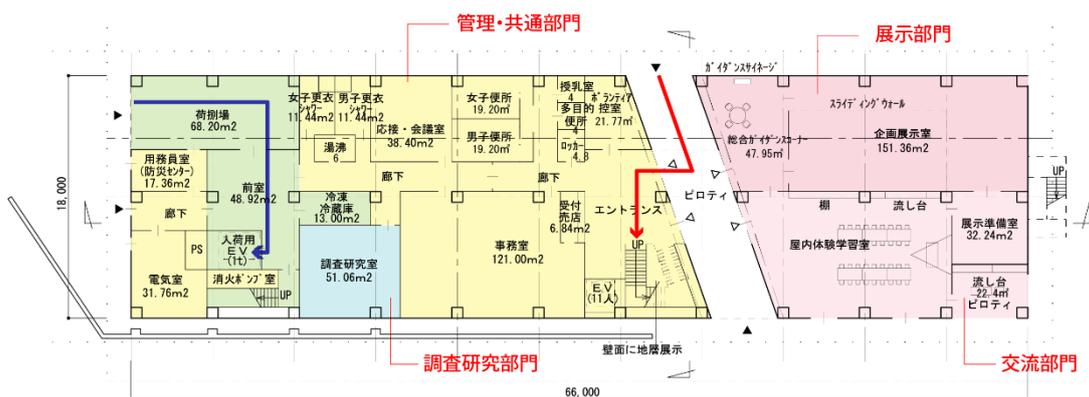
## (6) 建築平面計画



展示・情報・交流棟 3階平面図



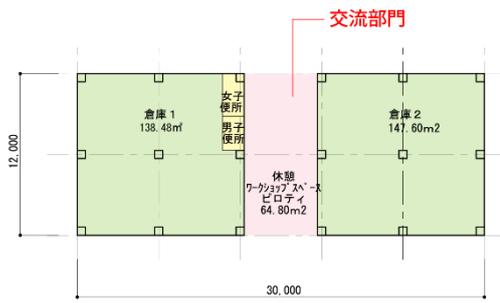
展示・情報・交流棟 2階平面図



展示・情報・交流棟 1階平面図

- 来館者動線
- 資料動線

### Ⅲ. 施設計画



ワークショップ棟 1階平面図

展示・情報・交流棟	3階床面積	1,089.42		
	2階床面積	1,160.94		
	1階床面積	1,077.02		
合 計		3,327.38	(1006.53坪)	※ピロティ含まず
ワークショップ棟	床面積	295.20	(89.3坪)	※ピロティ含まず